

昭和初期のモダン・シューズ

昭和初期1927年（昭和2年）に描かれた地下鉄開通のポスターがある。杉浦非水（1870-1965）の作で東洋で唯一といわれる地下鉄が東京の上野・浅草間に開通するというもの。ホームに並んで電車を待つ人々の服装をみると日本髪姿の女性など和服の中に洋装の男女も見られる。

当時は関東大震災（1923年）後の復興と年号が大正から昭和に変わった時代で、機能的な洋装が普及したが、男性が主力で女性はまだ少なく、都市部では子供の洋服も見られるようになった。

画中の男性はソフト帽にコートを着用、靴にはグレーの「スパッツ」が付けられている。これはフェルト地などを用いて不踏部を革のベルトで固定し外側をボタンで留めるもので、防寒と礼装に用いられた。近年女性の短かいタイツやレギンスのことをスパッツと呼ばれているがこれは和製英語で正しくない。

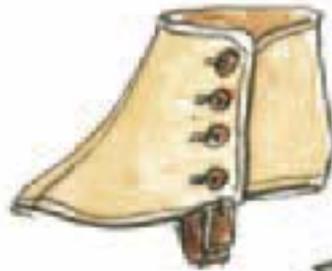
小学生とみられる男児は学帽に金ボタンの外套を着て靴は「スクリッパ」と呼ばれるアンクル・ブーツで、調節の出来る梯子型の尾錠がついている。女兒は甲にストラップの付いた踵の低い靴を履いた。

大正末から昭和初期、東京の銀座を中心にモダンガール、モダンボーイ（略してモガ・モボ）といわれる男女が街を闊歩した。女性は断髪に帽子をかぶり、アール・デコ調のハンドバッグを持ち、アンクルストラップのハイヒールを履いた、男性は、中折帽にスーツ姿、爪先の細い黒・白コンビ

ネーションの短靴を履いて商店街を見ながら散歩して“銀ブラ”を楽しんだ。

1930年代は生活環境、建築や家具、乗物、服装などすべてのデザインが出揃った時代で、男性の外出は揃って帽子をかぶる良き時代であった。

1920~30年頃
モダンな婦人靴



紳士短靴に
付けるスパッツ



“銀ブラ”に履いた
モダンボーイの
コンビネーション



小学生の
スクリッパ



少女用の
一本バンドローヒール



f.